佐土原町文化財調査報告書第９集

宮ヶ迫遺跡・古城第１遺跡報告書

1994・3

宮崎県宮崎郡佐土原町教育委員会

序

佐土原町は、宮崎県内の城郭史を考える上で重要な位置を占めています。地形的には県北の丘陵地を利用するタイプと県南の台地を用いるタイプがあります。当町で現在まで確認されている城郭は９城です。その内、佐土原城跡は平成５年12月28日付けで城郭遺跡において県内第１号の宮崎県指定史跡となりました。理由は中世から近世にかけて伊東氏と島津氏が使用しており山城部と居館部の保存状況が極めてよく、しかも県北と県南の接点にあり学術的にも注目されるところからです。また近くには、諏訪城跡が構えており中世の城郭として貴重です。

今回、九州電力株式会社の高圧線鉄塔建設に先立ち調査致しました宮ケ迫遺跡・古城第１遺跡は、佐土原城跡の城主達が以前、生活をしていた一帯の一つです。また鎌倉時代に伊東祐明が、日向に下り田島庄を治めた際、構えた城が今の古城跡だと言われています。従って、周辺は居館が多く点在していたと思われます。その証しとして宮ケ迫遺跡からは、古代から中世にかけての出土品が確認されました。

このように両遺跡の調査は、城郭及び周辺の生活状況の変遷を知る上で意義あるものとなりました。

ここで調査にご協力を頂いた九州電力株式会社、作業員の皆様のご理解とご協力に対し厚くお礼を申し上げます。

平成６年３月

佐土原町教育委員会

教育長　小野　勝

例　　言

1. 本書は、九州電力株式会社による鉄塔建設工事に伴い、発掘調査を実施した宮ケ迫遺跡、古城第１遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、佐土原町教育委員会が主体になり、社会教育課主任主事木村明史が担当した。
3. 調査組織は次のとおりである。

調査主体　佐土原町教育委員会　　教　育　長　　小　野　　勝
　　社会教育課長　　関　屋　紀　久　男
　　同課長補佐　　斉　藤　成　實
　　庶　務　係　長　　根　井　信　幸
　　臨　時　職　員　　藤　木　邦　子
　　特別調査員　　国立歴史民俗博物館　助手　千　田　嘉　博
作　業　員　　甲斐　庄一　　関屋　静男　　斉藤ナツエ　　斉藤　政夫　　釈迦郡春義
　　調所　重雄　　長友ミサ子　　根井　　明　　日野　妙子　　三浦スミ子
　　溝辺　次男
整　理　員　　有村美幸　　永友　夏代　　古川　真弓　　山下　暁子

4. 本報告の方位は磁北である。またレベルは海抜絶対高である。
5. 出土遺物は、佐土原町教育委員会で保管している。
6. 本書の執筆・編集は、木村が当たった。

本　文　目　次

序
例　言
第１章　はじめに …… 13
　調査の経緯 …… 13
第Ⅱ章　発掘調査の概要 …… 16
　1. 遺跡の立地と環境 …… 16
　2. 調査の概要 …… 25
　　(1) 遺　構 …… 25
　　(2) 遺　物 …… 26
第Ⅲ章　ま　と　め …… 29

挿　図　目　次

第１図　宮ケ迫・古城第１遺跡調査地周辺の地形 …… 14
第２図　宮ケ迫遺跡調査地 …… 15
第３図　古城第１遺跡遺構図 …… 17
第４図　宮ケ迫遺跡遺構及び土層観察地点図 …… 19〜20
第５図　宮ケ迫遺跡土層観察図(1) …… 21〜22
第６図　〃　(2) …… 23〜24
第７図　宮ケ迫遺跡出土遺物実測図(1) …… 27
第８図　〃　(2) …… 28

図　版　目　次

図版1.　宮ケ迫・古城第１遺跡全景写真 …… 1

2.　宮ケ迫遺跡全景写真（真上） …… 2

3.　古城第１遺跡全景写真（真上） …… 3

4.　宮ケ迫遺跡遺構 …… 4

5.　古城第１遺跡遺構 …… 5

6.　宮ケ迫・古城第１遺跡出土状況 …… 6

7.　宮ケ迫・古城第１遺跡作業風景 …… 7

8.　宮ケ迫遺跡出土遺物 …… 8

9.　〃 …… 9

10.　〃 …… 10

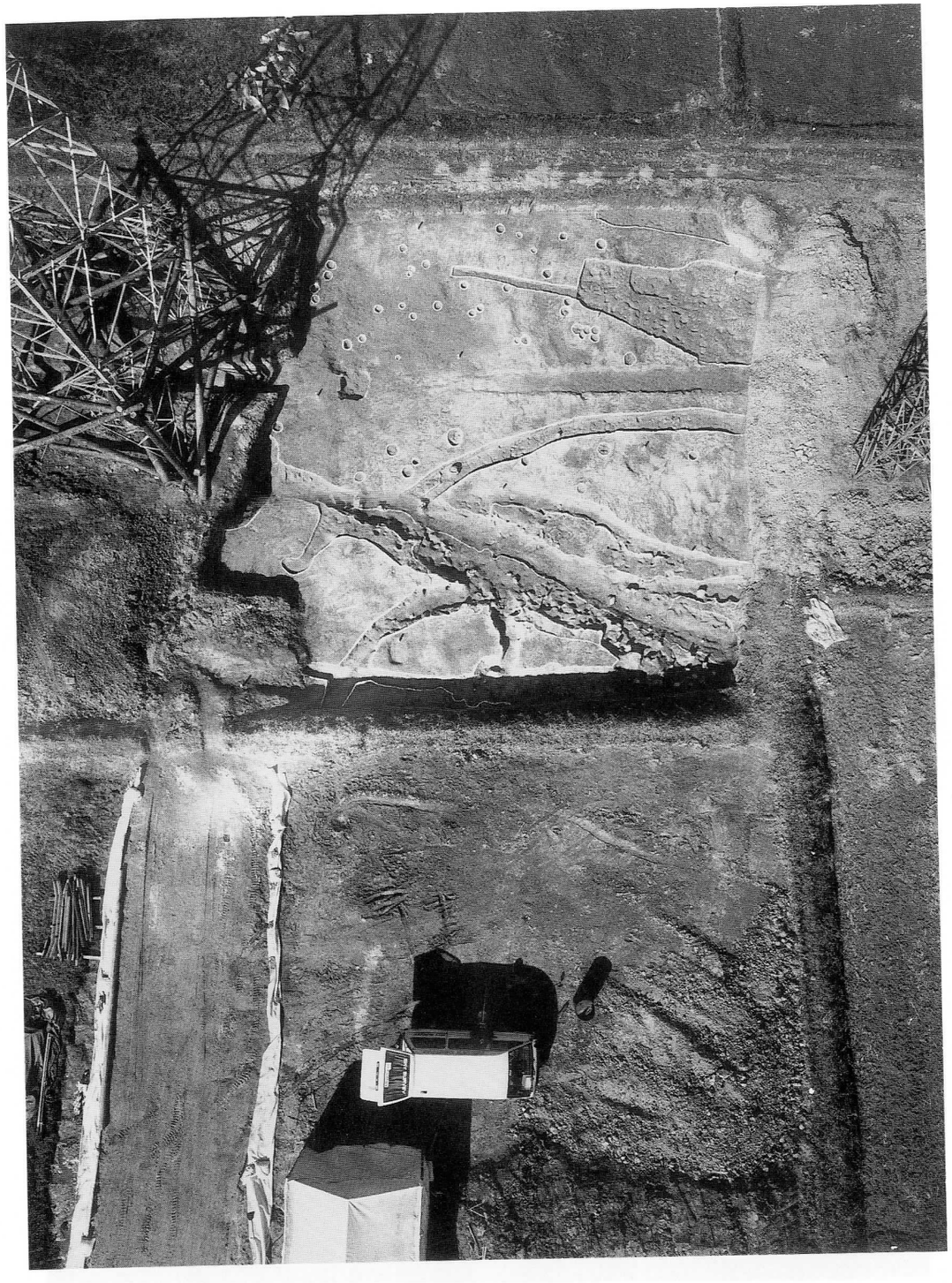
11.　〃 …… 11

12.　古城第１遺跡出土遺物 …… 12

図版1

宮ケ迫・古城第１遺跡全景写真

図版2



宮ヶ迫遺跡全景写真（真上）

図版3

古城第1遺跡全景写真

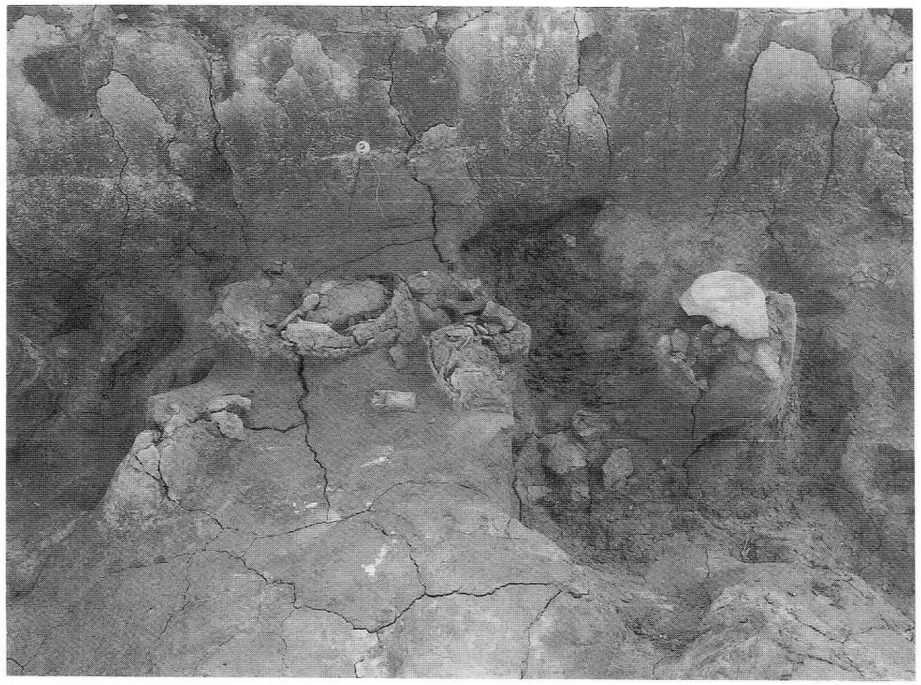
図版4

宮ケ迫遺跡遺構

図版5

古城第1遺跡遺構

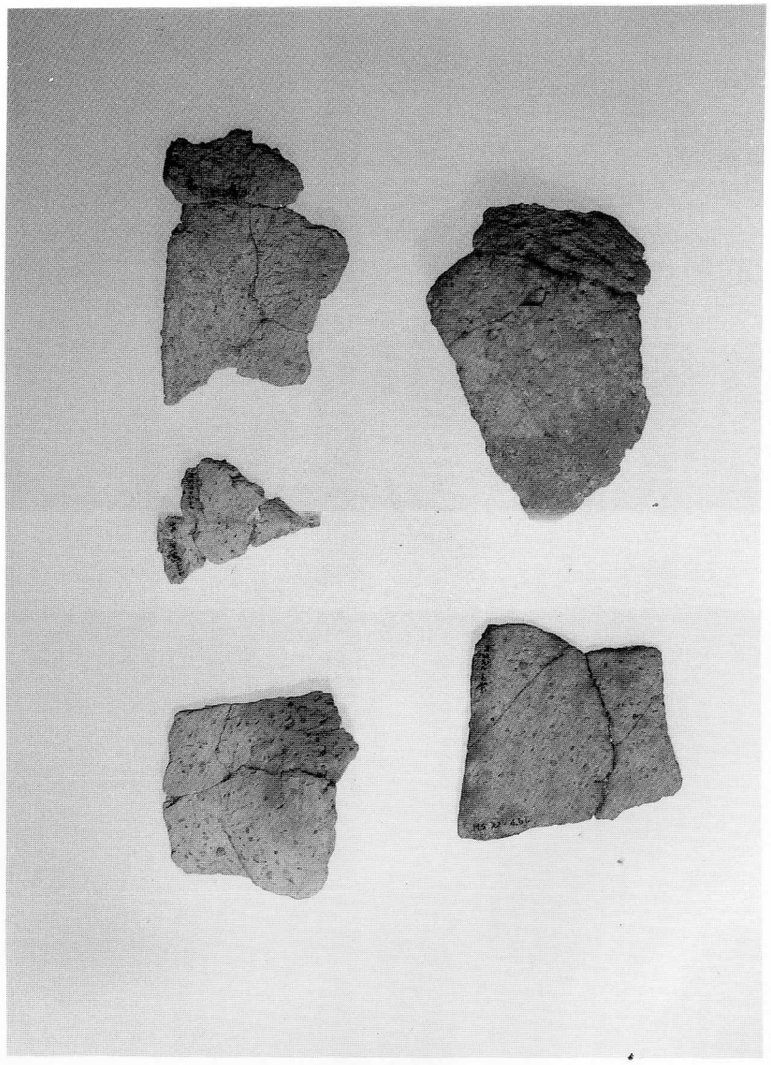
図版6



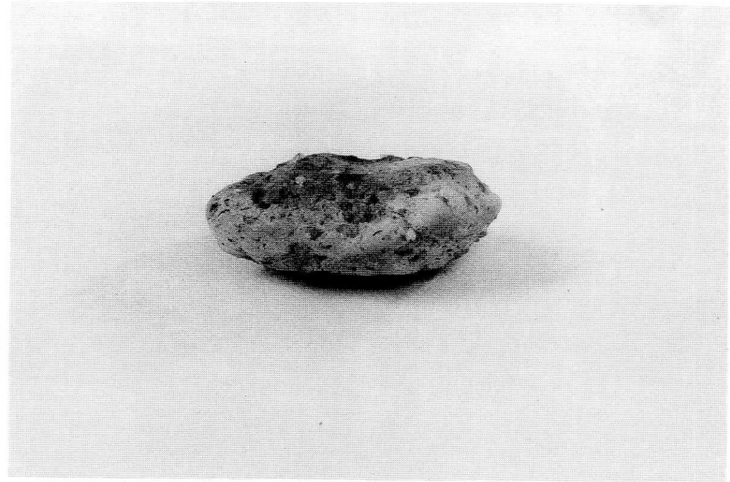
宮ケ迫・古城第１遺跡出土状況

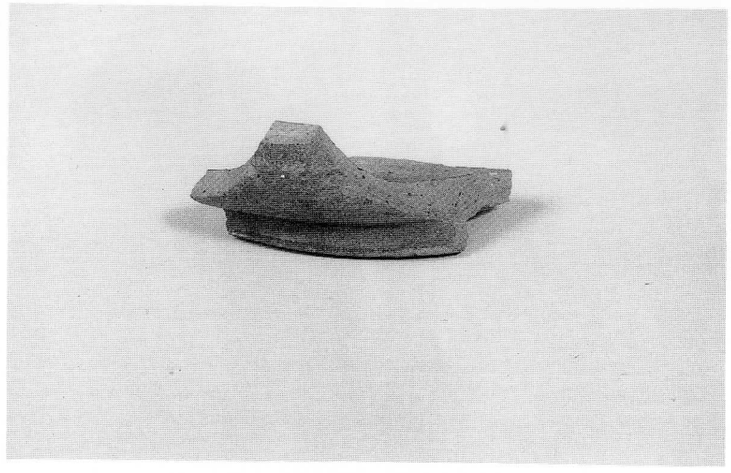
図版7

宮ケ迫・古城第１遺跡作業風景



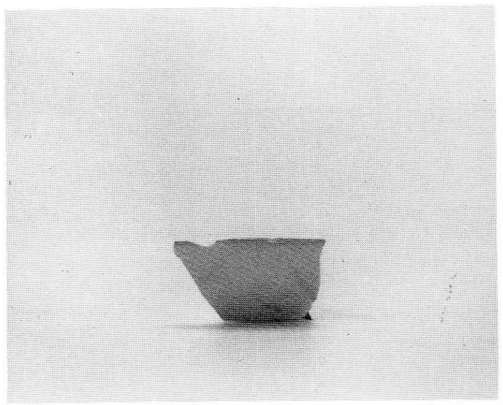
宮ケ迫遺跡出土遺物

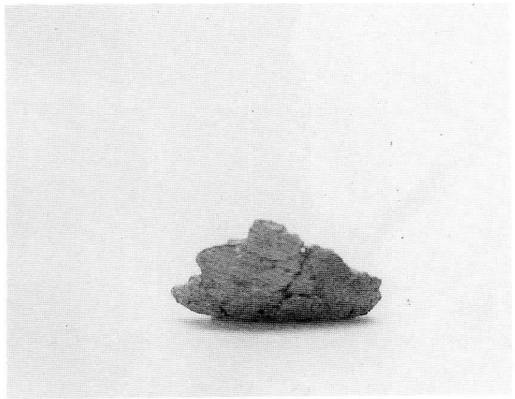


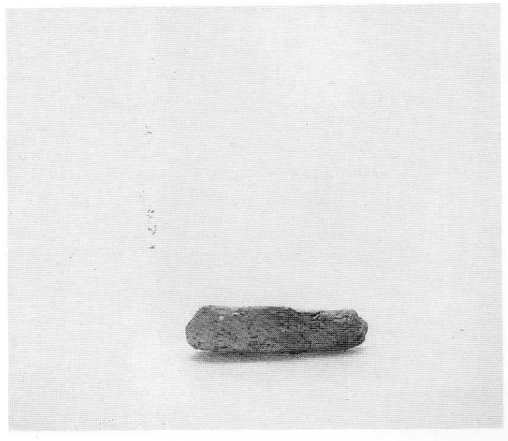


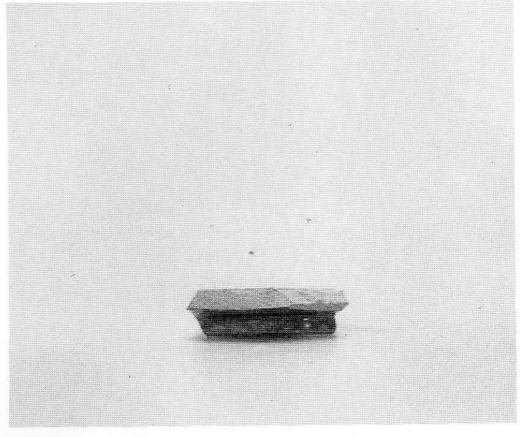
宮ケ迫遺跡出土遺物

図版10



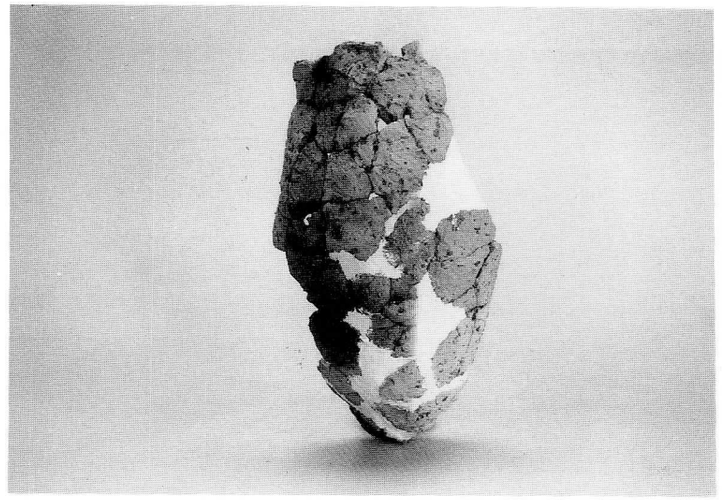


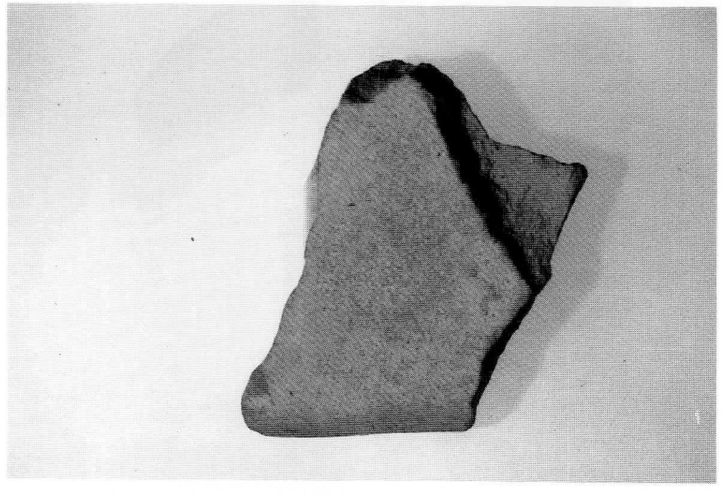




宮ケ迫遺跡出土遺物

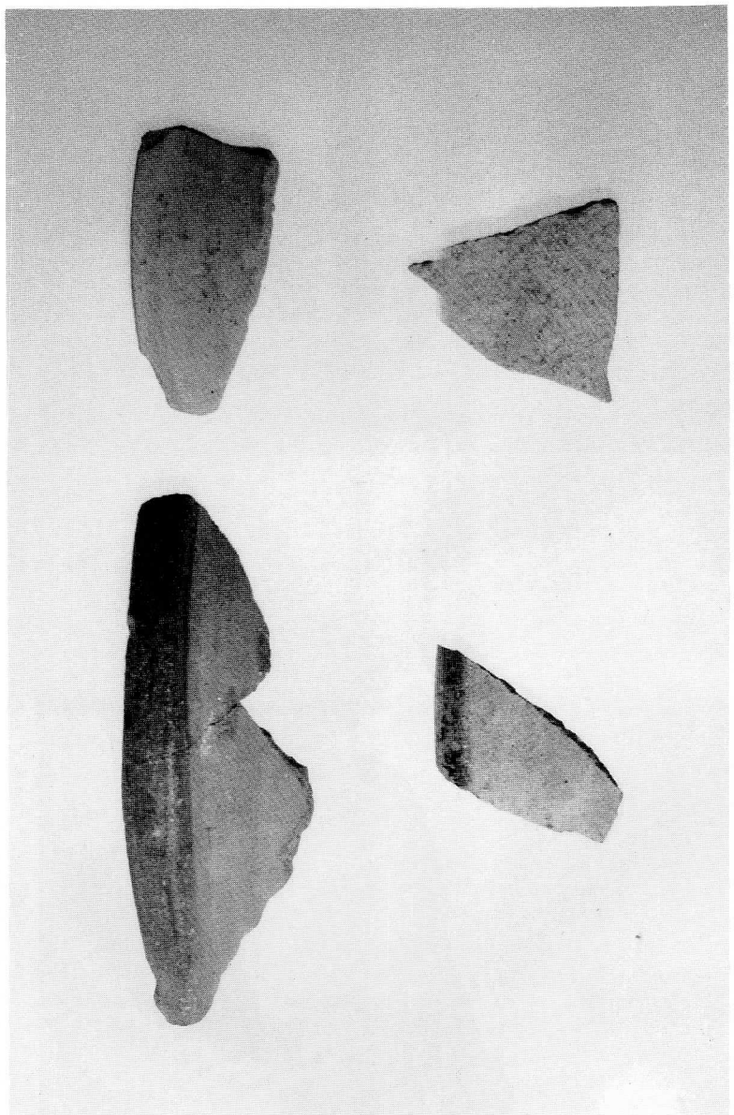
図版11





宮ケ迫遺跡出土遺物

図版12



古城第1遺跡出土遺物

第Ⅰ章　はじめに

調査の経緯

宮ケ迫遺跡・古城第1遺跡の調査は、平成5年1月19日から2月28日まで実施した。調査の原因は、両遺跡の地に九州電力株式会社宮崎支店が送電線鉄塔を建設することにあった。宮ケ迫遺跡は、分布調査で弥生から近世にかけての散布地と確認されている。また古城第1遺跡は、字名の関係からわかるように田島氏がこの地に居を構えた南北朝期以前に築いた城と思われる。

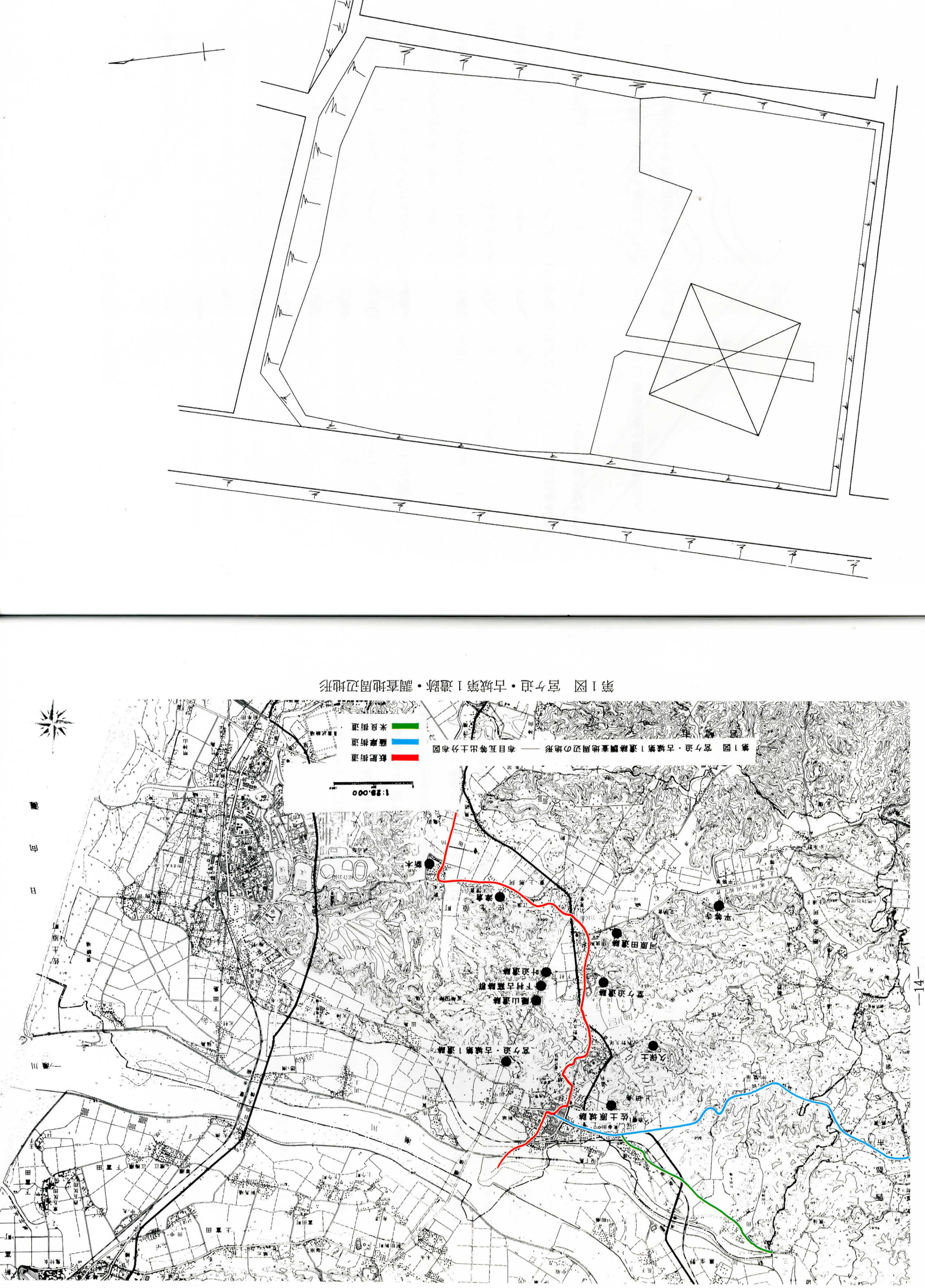
平成4年9月25日から10月2日まで試掘調査を行った結果、宮ケ迫遺跡からは、掘立柱建物跡・溝状遺構、古城第1遺跡からは、城郭に伴う堀状遺構がそれぞれ確認された。

本調査では、宮ケ迫遺跡は居館に関する建物遺構や溝または土師質土器等が出土し、古城第1遺跡では、櫓跡や陶磁器が検出された。

古城第1遺跡は、平成5年3月17・18・19日の間、国立歴史民俗博物館・千田嘉博助手を招聘して城郭遺構の残存度及び縄張り図作成の可能性を諮った。その結果、この地は近年のゴルフ場開発により城郭遺構の大半が破壊されており、わずかに丘陵先端部分に堀切が残っているばかりであった。

以上の調査で佐土原城以前の古代末から中世世界にかけての一端が垣間見ることができた。

第1図　宮ケ迫・古城第1遺跡・調査地周辺地形



第2図　宮ケ迫遺跡調査地

第Ⅱ章　発掘調査の概要

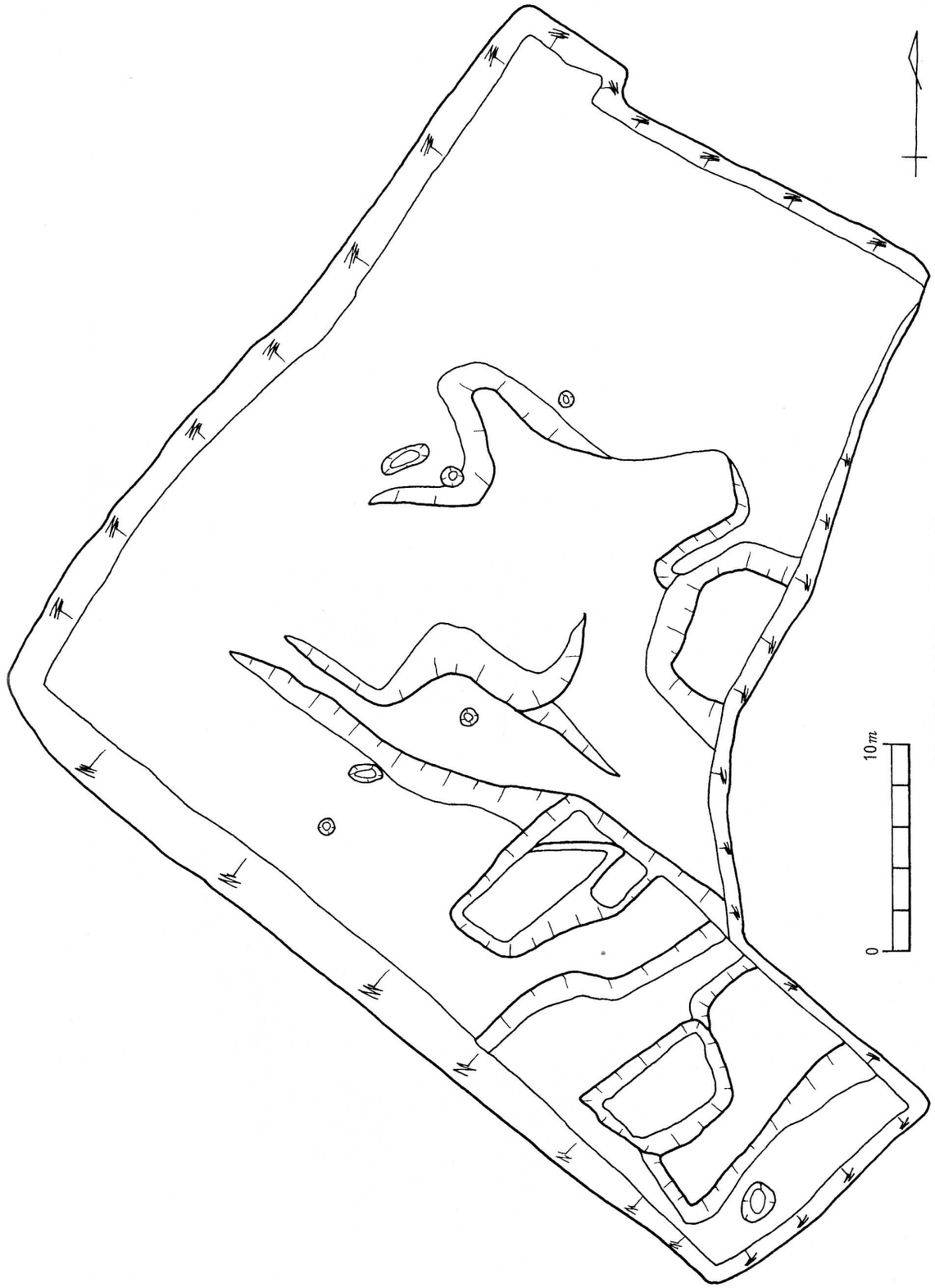
1．遺跡の立地と環境

宮ケ迫遺跡・古城第１遺跡は、北側に面して一ツ瀬川が流れ古代から南北の物資・情報が交差する地域であった。西側には大光寺を中心として多くの寺院が佐土原城跡を取り巻いている。寺院の役割は、周辺の支配と防御にあった。宮ケ迫遺跡の西側には、吉祥寺・原晶寺が点在していた。北西側にある佐土原丘陵の尾根は、古代から物資・情報のルートであった。古代は、日向国分寺等の地方官衛建設に伴って瓦類を現在の西都市へ搬出していた。瓦類は、平成４・５年に渡って実施された下村窯跡群の発掘調査で瓦陶兼業窯が確認された。そこでは、７基の窯跡及び８世紀から９世紀にかけての瓦・須恵器類が出土した。周辺では、宮崎県文化課が平成63年度から５ケ年計画で国府跡を調査し、関連遺物として布目瓦が出土した。叶迫遺跡・堂ケ迫遺跡・河原田遺跡の３遺跡から確認された。

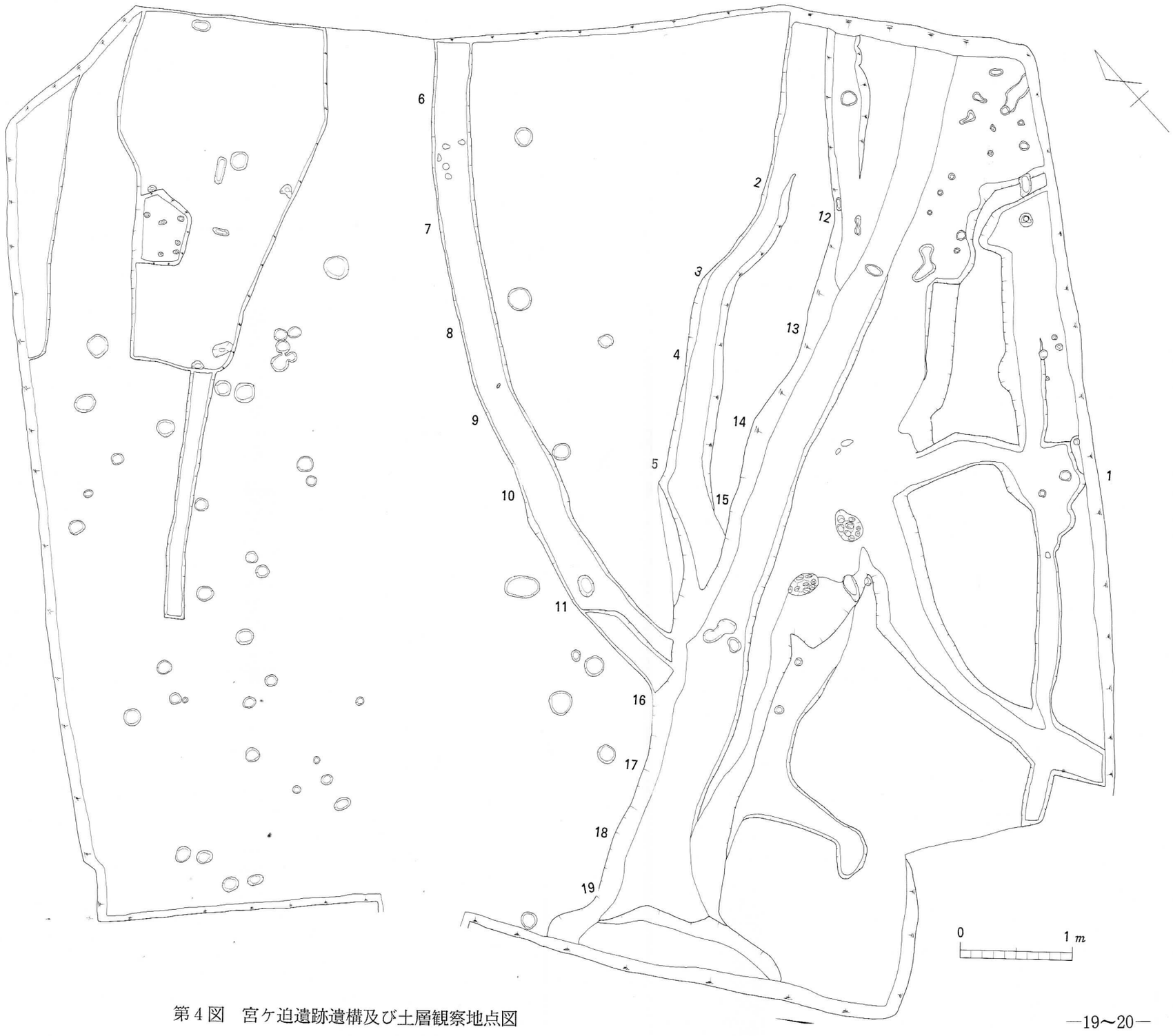
消費地は、下村古窯跡群の北側に隠山遺跡があり窯業関係遺物としては、須恵器・布目瓦が出土した。また、近世の寺院跡から瓦堂が発見された。このように佐土原丘陵の尾根は、古代は瓦類を国分寺へ運搬、中近世では支線として人々が往来した。

佐土原城下は、日南～清武の飫肥街道、薩摩～都城の薩摩街道、肥後～米良の米良街道が通過する。江戸大阪方面からも文化が流れ、この地は、“南九州の博多”に匹敵するほど栄えていた。

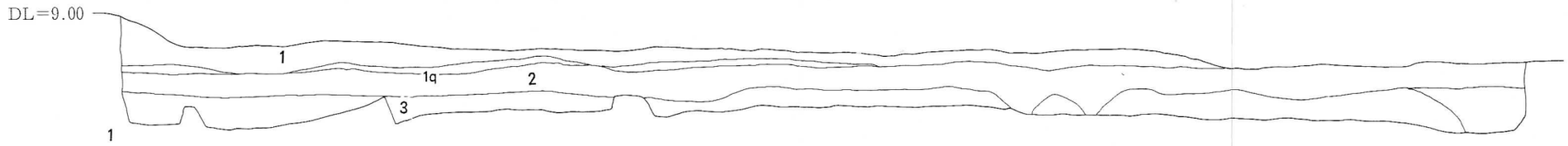
以上、宮ケ迫遺跡・古城第１遺跡は、古代から北側に一ツ瀬川、背後に佐土原丘陵の尾根、北西側には各街道がそれぞれの役割を果たしながら位置していた。

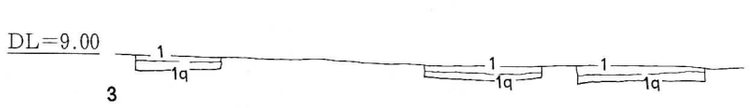


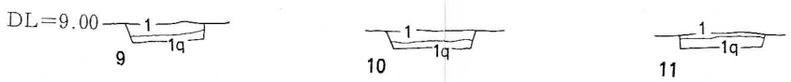
第３図　古城第１遺跡遺構図

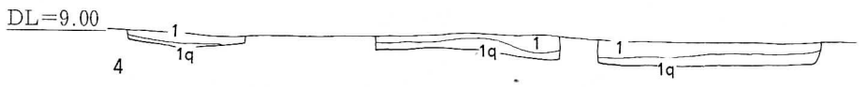


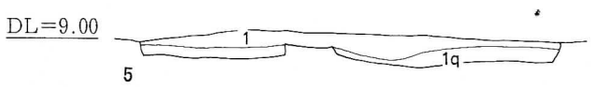
第４図　宮ケ迫遺跡遺構及び土層観察地点図







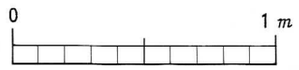


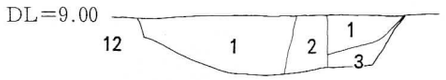


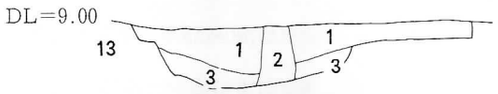
土　層

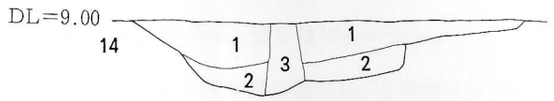
1. 褐灰 6／1 （砂壌土）
2. 褐灰 5／2　ブロック状に浅黄橙 8／6 が5㎝大で 3／10に入り込む（砂壌土）
3. 灰褐 5／2　ブロック状に浅黄橙 8／6 が帯状に 7／10で広がっている（砂壌土）

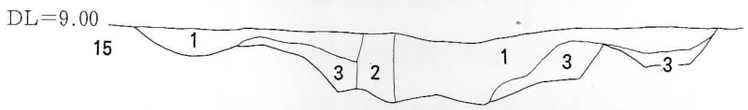
第5図　宮ケ迫遺跡土層観察図（1）

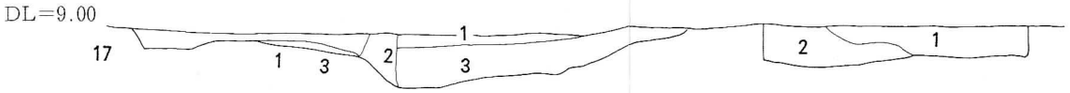


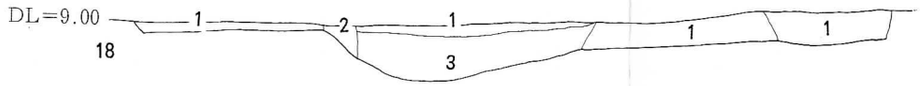


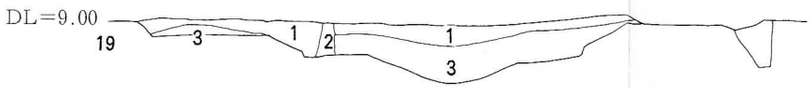


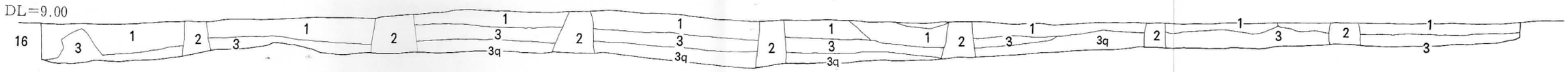




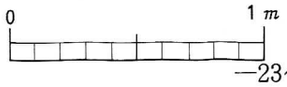








第６図　宮ケ迫遺跡土層観察図（２）



2. 調査の概要

(1) 遺　構

宮ケ迫遺跡・古城第１遺跡は、佐土原丘陵の北側先端部と一ツ瀬川の間に位置する。自然地形は、前方に一ツ瀬川が流れ長年に渡って洪水などの自然災害により氾濫していた。その結果、この一帯は氾濫原のため川が蛇行して生活者の場の移動が頻繁にあった。後方には、佐土原丘陵があり佐土原層と呼ばれる泥岩と砂岩で形成されている。

宮ケ迫遺跡は、伊東氏が佐土原城跡に城を構える前の居館の一部である。伊東氏は、建久元年（1190）祖工藤祐経が児湯郡240町に地頭職で赴任したことに始まる。建長４年（1252）伊東祐明が田島庄に下向し、田島伊東氏を起した。その際には生活用の建物が多く並んだ。従って、日常の建物と併設される排水遺構が遺跡の周辺を取り巻いている。

遺構は、掘立柱建物跡・排水遺構・溝状遺構等が検出された。配置は、掘立柱の周辺に排水遺構が巡り、また建物の外側（北東）に溝が防御的役割として位置している。柱穴の数は、98穴掘り出された。直経10cm～40cm、深さは10cm～30cm幅の大きさである。排水遺構は、数条あり、横幅が20cm、深さ10cm～20cm程度である。溝状遺構は、本流１本に支流数本が合流する形をとっている。横幅は100cm、深さは30cm～40cm範囲である。

古城第１遺跡は、前述の居館の城郭部に相当し、この地は丘陵の先端部で古代から“天神”と呼ばれていた。城郭全体の縄張りからは、眼下に一ツ瀬川及び後背湿地が広がる性格上、櫓が存在していたと推測できる。そのため岩盤を削り込み先端部から後方へ階段状に造成している。掘立柱は６箇所検出され、直径10～30cm、深さ10～20cmであるがまとまりはない。各所の高低差は、50cmほどで防御というより施設の区割りの役目を果たしていたと思われる。周囲は、天然の地形をそのまま利用して要塞としている。東側には小城、西側には下城、南側には上城が控え全体として古城の体裁を整えていたであろう。今は、古城の大部分が宮崎国際ゴルフ場の建設の際失われ、わずかに堀切が残るばかりである。

両遺跡は、日常生活の場と非日常の世界である戦闘の場の関係であった。この場の使分けは、伊東氏が佐土原城に移てからも江戸全半期まで続いた。

(2) 遺　物

宮ケ迫遺跡は、陶磁器・土師質土器・土師器・須恵器・弥生土器・石器等が出土した。点数は、18点で量的には少ない。出土した地点は、排水遺構・溝状遺構からが主である。遺物は、出土状況から廃棄したものと思われる。その結果、土器等が多く摩滅を受け形態・文様が判別できない。

古城第１遺跡は、試掘調査の段階で磁器が数点ほど確認されている。

① 土器（第７図１～10・第８図11～15）

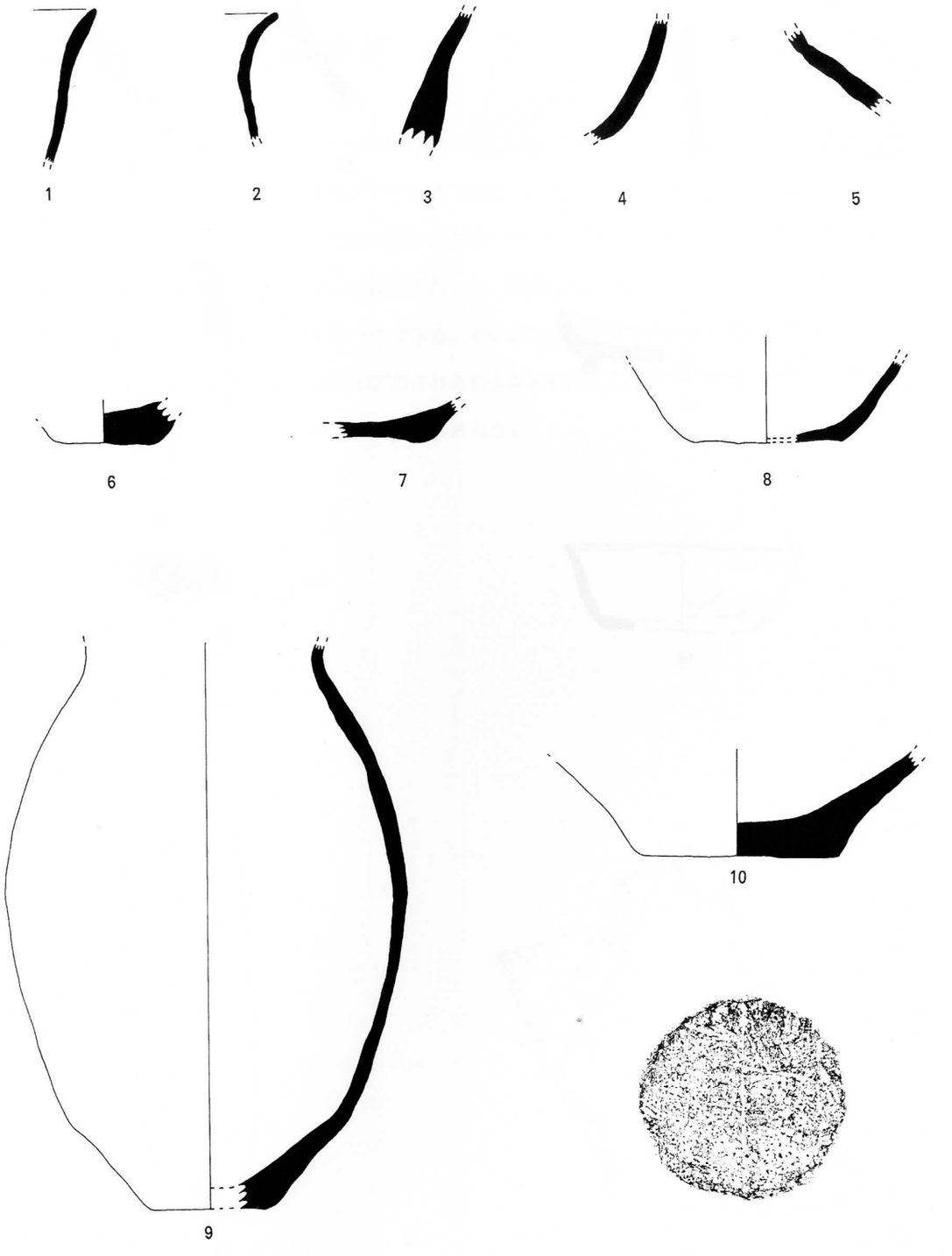
１は、土師器で器種は壷、口縁部の一部が残る。２は土師器、器種は鉢で、部位は口縁部・胴部である。３は、土師質土器で器種は鉢で胴部と底部の部分である。４は、土師質土器で器形から鉢の胴部である。５は土師器、器種は甕で残部は口縁部である。6.は、土師質土器で器形は甕、残部は底部にあたる。７は、土師器の甕の底部である。８は、土師器の坏の胴部から底部に相当する。９は、土師器の甕で頸部から底部にかけて全体の 1／3 ほど残っている。10は、土師器の甕の底部で外面内面ともに指ナデ調整が施されている。11は、須恵器の甕の胴部で、外面は斜め方向の平行叩き、内面は同心円叩きが施されている。12は須恵器、器形は鉢で口縁の部分である。外面はナデ・指ナデ内面は、ナデで調整されている。13の須恵器は器形は甕で、残存箇所は口縁部、成形調整は、ロクロによる回転ナデである。14の須恵器は、坏の器形で成形調整の外面は、ヘラ削りが見られ高台は削り出されている。全面は、ナデ調整である。内面の底部は、不定方向ナデである。15は、須恵器の甕の口縁部にあたる。全体はナデで調整している。

② 陶磁器（第８図16・17）

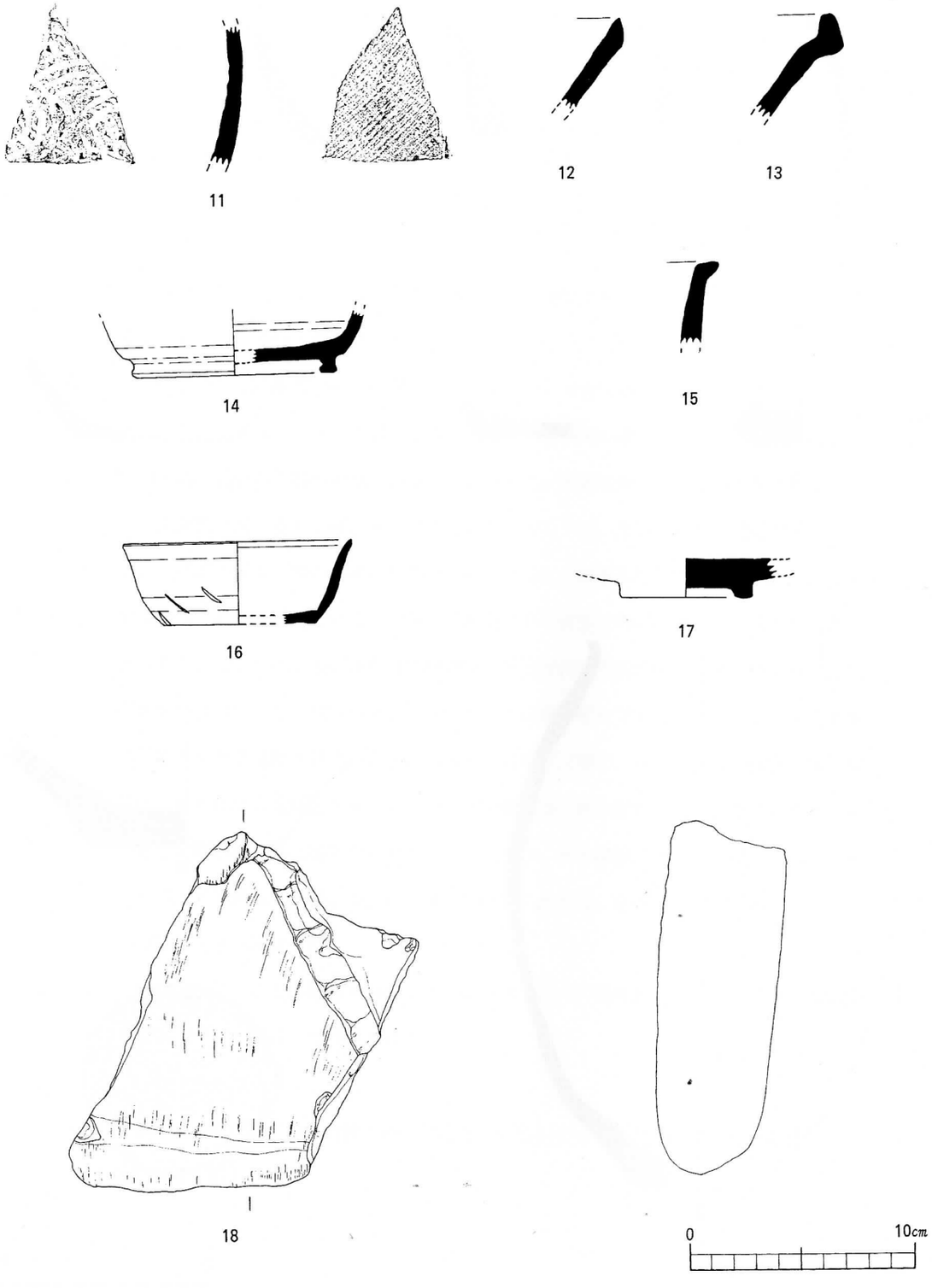
16は、白磁の坏で口縁部・胴部・底部にかけて 1／4 程度残っている。17は、碗で高台付きで 1／2 が残った底部である。

③ 石器（第８図18）

18の形態は、楕円形で右側上端は使用中に剥離している。表面には、台石で使用した擦痕が見られる。



第７図　宮ケ迫遺跡出土遺物実測図（１）



第８図　宮ケ迫遺跡出土遺物実測図（２）

第Ⅲ章　ま　と　め

宮ケ迫遺跡・古城第１遺跡は、一ツ瀬川を前方に控え一部佐土原丘陵の先端部に位置する。場所上、南の薩摩・大隅、遠方ではアジア大陸・台湾・琉球から、東は関東・関西方面の特有の文化が入ってきた。今回、調査した古代末から中世にかけての城郭と居館は、中央政権から派遣の役人により次第に治められていった痕跡であった。西南にある佐土原城及び城下は、中世から近世の南九州における城郭モデルの一つである。その前段階の山城と居館が両遺跡であり、調査で一部が確認された。今後、この地が調査される機会があれば佐土原城跡の整備とともに次第に古代末から近世の歴史が明らかにされていくであろう。

佐土原町文化財調査報告書
第9集
宮ケ迫遺跡・古城第1遺跡報告書
発行年月日　平成6年3月31日
発　　行　宮崎県宮崎郡佐土原町
　　教育委員会
印　　刷　株式会社　宮崎南印刷